

『祝福に気づく出会い』 ヨハネ4:6-15

4:6 そこにヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れを覚えて、そのまま、この井戸のそばにすわっておられた。時は昼の十二時ごろであった。

4:7 ひとりのサマリヤの女が水をくみにきたので、イエスはこの女に、「水を飲ませて下さい」と言われた。

4:8 弟子たちは食物を買いに町に行っていたのである。

4:9 すると、サマリヤの女はイエスに言った、「あなたはユダヤ人でありながら、どうしてサマリヤの女のわたしに、飲ませてくれとおっしゃるのですか」。これは、ユダヤ人はサマリヤ人と交際していなかったからである。

4:10 イエスは答えて言われた、「もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう」。

4:11 女はイエスに言った、「主よ、あなたは、くむ物をお持ちにならず、その上、井戸は深いのです。その生ける水を、どこから手に入れるのですか」。

4:12 あなたは、この井戸を下さったわたしたちの父ヤコブよりも、偉いかたなのですか。ヤコブ自身も飲み、その子らも、その家畜も、この井戸から飲んだのですが」。

4:13 イエスは女に答えて言われた、「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう」。

4:14 しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。

4:15 女はイエスに言った、「主よ、わたしがかわくことがなく、また、ここにくみにこなくてもよいように、その水をわたしに下さい」。

●序論

先日の礼拝。サマリヤの女性に出会うに至るまでのイエスさまのあゆみについて。

イエスさまは、当時多くのユダヤが持つ、さまざまなこだわりから離れて自由でした。ユダヤをあっさり離れた事にも、サマリヤをあえて通ることにも、この女性に声をかけることにも、そこにこの女性とのとの出会いが備えられていたからです。

決して小さな出会いではありません。今日聖書を通して、2000年の時を経て、わたしたちはその出会いとイエスさまの思いに注目できるからです。

そして今日、この女性との出会いには、更に目的があったことを見ます。それが彼女を祝福へと導くためであった。それが今日の注目点です。その祝福を語る言葉。

4:14 しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。

この祝福をわたしたちにも示されていることを思い、読み進めてまいりましょう。

●本論

I. そこに人を祝福するための出会いがある

4:6 そこにヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れを覚えて、そのまま、こ

の井戸のそばにすわっておられた。時は昼の十二時ごろであった。

4:7 ひとりのサマリヤの女が水をくみにきたので、イエスはこの女に、「水を飲ませて下さい」と言われた。

イエスさまは真昼に、旅の疲れを覚えて井戸のそばに座っておられたとあります。

…この出会いが偶然ではない、イエスさまは、この女性とお話しし、祝福するためにそこに座っておられたのだとわかります。

イエスさまはその女性の人生の背景をもよくご存じでおられたからです。

旅の疲れ覚えて、そこに座っていたということは事実です。ただ、そういう疲れさえ、この女性を祝福するために用いられているのです。

どんな状況も、すべて主のもとにあれば祝福のために用いられます。

「そして、そこに用意されたイエスさまとの出会いがあります。」

イエスさまとの出会いを経験した時、その言葉を聞いた時、それは偶然ではない、あなたのすべてをよくご存じのイエスさまが、用意してくださっている祝福があるのだと気づいてもらえれば感謝です。

II. そこに隔たりを超える祝福がある。

4:9 すると、サマリヤの女はイエスに言った、「あなたはユダヤ人でありながら、どうしてサマリヤの女のわたしに、飲ませてくれとおっしゃるのですか」。

これは、ユダヤ人はサマリヤ人と交際していなかったからである。

「敵意」や「へだたり」があると、祝福できない、してはいけない、祝福するなんて信じられない…。それがわたしたちの持っている常識的な感覚かもしれません。

何より、自分の感情がついていかない…そう思うことでしょう。

聖書は、そんな私たちに、イエスさまの姿を示されます。

イエスさまは、「この女性を祝福するために」隔たりを乗り越えられたのです。

4:10 イエスは答えて言われた、「もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう」。

隔たりを超えて神の祝福を、用意していることを宣言しているのです。

ここに、”祝福することに心を定めたイエスさまの姿”があります。

”愛することに心を決めたイエスさまの姿”があるのです。

当時の常識からしても、このサマリヤの人を祝福すること、また、聖書に記されているイエスさまが会ったさまざまの人々（病の人、罪びと、売春婦や汚れていると言われる人）との出会いは、あってはならないことでした。

けれども、イエスさまは、その人たちのところに出向き、祝福し、そして愛することを止めなかったのです。

のちにこの女性の素性が明らかになります。多くの男性と結婚離婚を繰り返し、今は夫ではない男性と暮らし、そういう生活のゆえに、周囲の人々の交わりからも距離を置かれていたような有様でした。

彼女の心は渴いていました。渴いているからこそ、癒しを求めて数々の男性との出会いに求めていたのです。

聖書の中にその渴きはいろいろな人に見れます。たとえば取税人ザアカイがその渴き

の癒しをお金に求めていた様子がわかります。

しかし、彼もまたイエスさまとの出会いで変えられました。

イエスさまは、その喜びにある彼を見て、こんな風にも語っています。

19:9 イエスは彼に言われた、「きょう、救がこの家に来た。・・・さらにこう語るのです。

19:10 人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである」。

どんな隔てをも超えイエスさまは、今日も、わたしたちを祝福してくださるお方です

あのサマリヤの女性のように、私とあなたの間にはこういう障害があるから、わたしはあれがあるから、ないから…とか、わたしはまだクリスチャンでないから…とか、ふさわしいとかふさわしくないとか、いろいろな意識を持つことでしょう。

イエスさまは、その隔てを超えてわたしたちと同じ人となり、来てくださいました。祝福するためです。そのことをこう言われます。

4:14 しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。

Ⅲ. 祝福を曲げないお方を知る

4:25 女はイエスに言った、「わたしは、キリストと呼ばれるメシヤ（救い主）がこられることを知っています。そのかたがこられたならば、わたしたちに、いっさいのことを知らせて下さるでしょう」。

4:26 イエスは女に言われた、「あなたと話をしているこのわたしが、それ（救い主）である」。

このサマリヤの女性は、自分の人生のさまざまな弱さや過ち、そして悩みや悲しみもすべて知っておられる人と出会いました。そしてその方の口から、ご自分が救い主であると聞いたのです。

この方は、知っていてなお、わたしを祝福してくださっている。…彼女が出会った救い主は、「祝福を曲げない方であった」ということです。

しかし、私たちは正しい人間でも、だれかに恩顧を与えているような人間でもなく、罪人に過ぎないのに、この罪人のために、キリストは死んでくださった。このことによって、神は私たちに対する愛をいかに現されたのである。

（ローマ5:8・現代訳）

その真実な愛は、ご自分を十字架に架けて、あざける人々にも向けられました。イエスさまは、その死の苦しみの中でとりなし祈られたことを聖書は記録しています。

23:34 そのとき、イエスは言われた、「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」。

イエスさまがここまで真実に、わたしたちをとりなして、祝福へと導いて下さるにもかかわらず、なぜ、わたしたちはその祝福されている実感がないのだろうか…、そう思うことはありませんか？

私たちに大切なことは、祝福を「受け取ること」そして、受け取った者としてふさわしい応答と感謝をささげることです。

そうして、いただいている祝福の世界に入ることができ、またそこでその深みを知る

ことができます。

繰り返しになりますがイエスさまの言葉をもう一度読むとわかります。

4:14 しかし、わたしが与える水を飲む者（受け取る者）は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。

水のことを聞いた、知った、手に取った…で終わりでは、そこまでです。イエスさまは、「わたしの与える水を飲む者は」…と語り、その人たちが経験する泉の祝福を表しているのです。 ですからこれは、信仰の事柄です。

●最後に

砂辺シゲ姉の証しを読んで。

そこには、キリストと出会って、自分の抱える罪からの救いを経験して、その喜びで、決してこの救いを、信仰を手放さないという決意が語られていました。

しかし、そこにはご主人や周囲の人たちからの強烈な反対があったと。

…しかし決してくじけず信仰を守り通してきた人であった。

それはただ頑固者ではなく、御言葉に生きたありさまだったと。

1ペテロ3:1-2

同じように、妻たる者よ。夫に仕えなさい。そうすれば、たとえ御言に従わない夫であっても、あなたがたのうやうやしく清い行いを見て、その妻の無言の行いによって、救いに入れられるようになるであろう。

彼女は長い年月、ご主人の救いを祈り、又徹底して仕え、御言葉どおりに生き抜いて晩年、ご主人が変えられていったことを証しておられたのです。

私はあらためて、そのお口から聞きたかったと思うことがあります。なぜ、そこまで真実にイエスさまから離れず従ってこられたのですか?…と。

今日、そのお答えをここに見るように思っています。

イエスさまから「わたしが与える水」いただいて飲み、そしてそのうちからあふれるかけがえのない喜びの泉をいただいて生かされている人であるとわかります。

聖書は、あの女性がその後、どんな風に変えられて生きたかについては記していません。でもその答えは、あの砂辺姉やわたしたちの内に見ることができるのです。

だからもう一度イエスさまの祝福の言葉に耳を傾けましょう。

4:14 しかし、わたしが与える水を飲む者（受け取る者）は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。